



公益財団法人日本YWCA

2019年度事業報告

事業年度: 自)2019年4月1日 至)2020年3月31日

公益財団法人日本YWCA 2019年度事業報告

事業年度: 自)2019年4月1日 至)2020年3月31日

1. 平和・人権・環境などグローバルな課題について学習及び普及活動を行い、かつこれらの問題解決のために若い女性のリーダーシップを養成する事業 (公益目的事業1)

「平和」「人権」「環境」「教育」「女性への暴力」「HIVとAIDS」「性と生殖/健康」など女性と子どもに関わる地球規模のグローバルな課題をこに若い世代の人たちに普及啓発することを目的に、若い女性を対象とした以下のリーダーシップ養成プログラムを実施した。プログラムでは座学その他、課題の現場への訪問を重視し、フィールドワークを行い、これらの学習と実践によって国際社会に貢献する次世代の人材養成を行った。

■日韓ユース・カンファレンス

日韓ユース・カンファレンスは、日本と韓国の30歳以下のユースが寝食を共にしながら、日本・韓国に共通するさまざまな問題について共に学び、対話・交流する、草の根の国際交流プログラムである。1993年以来、韓国・日本を毎年交互に会場として開催し、平和を創造するユースのリーダーシップ養成に貢献してきた。プログラムの企画・運営は、30歳以下のユースを中心とした実行委員会が担う。



2019年度は、日本・韓国におけるミソジニー(女性嫌悪)の実態や、それに対抗する#MeToo運動の現在について学んだ。日本軍「慰安婦」問題を記憶する「戦争と女性の人権博物館」を訪問。「慰安婦」問題は、韓国の#MeToo運動の基盤をつくったと認識され、参加者は「慰安婦」にされた女性一人ひとりの性被害に心を痛め、また声をあげる姿に勇気を得た。プログラム後半の協議では、自分たちにできる行動として、性暴力・性差別に反対する「#MeToo」「#With_you」などのメッセージを書いたTシャツを着て、オンライン上で広くアピールするアクションプラン(行動計画)を採択した。

また、韓国でのプログラム実施の準備として、東京で事前学習会と講演会を実施した。

事前学習会「ミソジニーと日韓#MeToo運動 - 東アジアの女性たちの連帯に向けて」

日程: 2019年11月30日(土)~12月1日(日)

会場: マイノリティ宣教センター・早稲田奉仕園・日本YWCA

宿泊: 東京ハウスイン

参加者: 24名(実行委員4名、ユース参加者15名、運営委員3名、職員2名)

プログラム:

<1日目> 自己紹介・アイスブレイク、YWCAについて、日韓ユース・カンファレンスについて、講演1「日韓の歴史、および日韓YWCAの歩みについて」(石井摩耶子さん)、講演2「昨今の日韓におけるジェンダーの課題について」(北原みのりさん)、ディスカッション、夕食・交流会、1日の分かち合い

<2日目> フィールドワーク「女たちの戦争と平和資料館」見学、担当決め、グループワーク、グループワークの進捗状況の共有、事務局からの連絡

講演会「ミソジニーと日韓#metoo 運動—東アジアの女性たちの連帯に向けて」

日時:2019年11月30日(土)16:00~17:00

会場:早稲田奉仕園 YOU-I ホール

講師:北原みのり(女性アダルトショップ「ラブピースクラブ」代表、ポルノ・買春問題研究会外郭団体ポルノ被害と性暴力を考える会理事、日本軍「慰安婦」問題日韓合意に反対する一般社団法人「希望のたね基金」理事)

参加者: 学生1名、一般6名

日韓ユース・カンファレンス 2019

日程: 2020年1月17日(金)~20日(月)

会場・宿泊: Seoul N Hotel Dongdaemoon、National YWCA of Korea(韓国・ソウル)

テーマ:ミソジニーと日韓#MeToo 運動 —東アジアの女性たちの連帯に向けて

参加者:39名(日本 YWCA 側参加者 20名、韓国 YWCA 側参加者 19名)

プログラム:

<1 日目>開会式、歓迎の挨拶(世界 YWCA 副会長 Mimi Han)、基調講演「韓国におけるミソジニーと #Metoo 運動、およびその歴史」(Korea Women's Hotline 人権文化局局長 Jaeyeon Cho)、韓国 YWCA によるナショナル・レポート発表、日本 YWCA によるナショナル・レポート発表、韓国 YWCA による文化交流

<2 日目> ジェンダー平等図書館「Yeogi」訪問、「戦争と女性の人権博物館」見学、韓国 YWCA 歴史博物館「Jie」訪問、フィールドワークの感想共有、「ミッションプロジェクト」(街にある性差別的な広告・表現を探して写真に収める)、日本 YWCA による文化交流

<3 日目> 日本 YWCA による朝の集い、グループ毎にプレゼンテーション(フィールドワーク、「ミッションプロジェクト」の感想共有)、ワークショップ I「日韓 YWCA のアクションプラン作成」、ワークショップ II「CSW64 パラレルイベントの企画」、グループ毎でのプレゼンテーション、明洞探検

<4 日目> ワークショップ III「アクションプランの最終化、次回の日韓ユース・カンファレンスのテーマ決め」、閉会

アクションプラン: #Metoo や #With_you を広めるために T シャツを作成し、それを着た写真と合わせて「何故自分が #metoo 運動に参加・支持するのか」というメッセージを、日韓 YWCA の Facebook に投稿する。(3月14日までに19回、8月末までに100回、12月末までに200回とする。)

■南京を考える旅

このプログラムは、「ひろしまを考える旅」の姉妹プログラムとして2007年に始め、近年は2年毎に実施している。2019年度は、2020年3月12日~16日の日程で準備を進めていたが、COVID-19のため中止した。

2. 青少年の健全な心身育成に資する事業 (公益目的事業 1)

豊かな出会いの中で、思いやりと生きる力を育み、平和な未来を創り出す人材を養成することを目的に、中学生や高校生を対象に以下のカンファレンスを実施した。地域や学校をこえた生徒たちの交流や、フィールドワークなどを通して自己を発見し、他者への理解を深め、生きる力を育む一助となった。これらの経験を通して、

青少年が地域社会に生きる人たちに目を向け、国際社会の課題を知ることによって、将来、国際的な場で社会貢献活動を担う人材を養成した。毎年夏に地区または全国規模で開催。2019 年度は全国カンファレンスの年であり、広島で開催した。

■中高 YWCA 全国カンファレンス 2019

日時:2019 年 8 月 8 日(木)14:30~10 日(土)11:30

会場:広島女学院中学校・高等学校ほか

宿泊:広島宿 相生

テーマ:世界につながる いのちのチカラ

—ひろしまを考える旅

主題聖句:エレミヤ書 29 章 11 節

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」

参加人数:177 名(加盟校 37 校の内 22 校より 生徒 122

名・教員 29 名、中国 YWCA より 3 名、韓国 YWCA より 4 名、学生ボランティア 4 名、看護師 1 名、通訳者 2 名、中高 YWCA 委員会委員 1 名、ひろしまを考える旅委員会委員 5 名、日本 YWCA 職員 6 名)

プログラム:

<8 日>開会礼拝 メッセージ:松原恵美子(中高 YWCA 拡大委員会委員長/プール学院中高 YWCA 顧問)、被爆証言 証言者:江種祐司(広島県原爆被爆教職員の会会長)、広島平和記念資料館見学 平和ガイド 9 名が協力、韓国・中国 YWCA

のスピーチ、交流会、就寝前の祈り 松山東雲中高 YWCA

<9 日>朝の祈り フェリス女学院中高 YWCA、碑めぐり ガイド:広島女学院中高の生徒、フィールドワーク (FW)、FW 発表準備、就寝前の祈り グループ毎

FW1 広島城周辺市内コース

リソースパーソン(RP):渡部和子(広島 YWCA カンナの会)

FW2 『夏の花』(原民喜)を歩くひろしまコース

RP:竹原陽子(原民喜文学研究者)

FW3 韓国・朝鮮人被爆者の歩みコース

RP: 林修二(広島キリスト教社会館デイサービスセンターかりん センター長)

李鍾根(被爆者)

安錦珠(韓国の原爆被爆者を救援する市民の会世話人)

豊永恵三郎(被爆者)

FW4 佐々木禎子さんを訪ねてコース

RP: 黒瀬真一郎(広島折鶴の会)

川野登美子(佐々木禎子さんの同級生)

向井希夫(日本キリスト教団広島流川教会牧師)

FW5 呉市の過去から現在・未来を見通すコース

RP: 中峠房江(呉 YWCA 会員)

平賀伸一(高校教員)



FW6 呉空襲と『この世界の片隅に』コース

RP: 中峠房江(呉 YWCA 会員)

平賀伸一(高校教員)

協力 峠由里・長尾真理子・山田恵美子・家頭昌子(呉 YWCA)

FW7 中高生が伝えるヒロシマ～女学院の被爆・平和活動紹介・周辺フィールドワーク

A グループ RP: 向井希夫(広島流川教会牧師牧師)

B グループ 協力: 広島女学院中高 署名委員会の生徒・教員

<10 日>朝の祈り 山形学院中高 YWCA、グループワーク発表、各自のふりかえり、閉会礼拝 メッセージ:
刀祢館美也子(広島女学院中高 YWCA 顧問/中高 YWCA 拡大委員会委員)、写真撮影

■中高 YWCA 顧問総会・研修会

日本 YWCA に加盟する学校 YWCA の顧問を対象とする研修と、1 年間の活動報告と活動計画について協議する顧問総会を毎年実施している。2019 年度は東京で行った。

日時: 2019 年 12 月 26 日(木)14:00～27 日(金)13:00 27 日 13:15～15:00 は自由参加プログラム

会場: 26 日 東京 YWCA 会館 217 号室

27 日 日本 YWCA 事務所

出席: 22 名(顧問 15 校より 18 名、日本 YWCA 運営委員 1 名・総幹事、担当幹事 3 名)

プログラム:

<1 日目>開会礼拝 メッセージ 郡司啓子(横浜共立学園)、研修—「YWCA って?」①国内外に広がる YWCA の組織 手島千景(日本 YWCA 人材養成部会長/日本 YWCA 副会長) ②YWCA の歴史 尾崎裕美子(日本 YWCA 総幹事)、中高 Y・地域 Y・世界につながるネットワーク—国連 女性の地位委員会(CSW)に参加したユースからの報告と提案(人権教育としての性教育) 矢田部沙羅(東京 YWCA 会員)・張美帆(横浜 YWCA 会員)、研修を受けての話し合い、交流会

<2 日目>顧問総会、閉会の祈り、自由参加プログラム「YWCA のリーダーシップを体感するワークショップ」西原美香子(日本 YWCA 中高 YWCA 委員会・人材養成部会担当幹事)

2019 年度中高 YWCA 顧問総会

日時: 2019 年 12 月 27 日(金)9:00～12:50

場所: 日本 YWCA

出席: 14 校 16 名 委任: 13 校 欠席: 10 校 陪席: 5 名

議事

1. 議長・書記の選出
2. 全国中高 YWCA 顧問会運営規程の確認
3. 前回記録の確認
4. 報告

以下、報告を受けて承認。

(1) 中高 YWCA 委員会経過報告: 松原恵美子(中高 YWCA 委員会委員長)

(2) 中高 YWCA 全国カンファレンス報告

(1) 『YWCA パスポート』発行: 山口慧子(中高 YWCA 委員会担当幹事)

(2) 日本 YWCA 報告

- ① 全国ユースギャザリング: 山口慧子世界 YWCA 総会: 尾崎裕美子
- ② 国際プログラム(CSW ほか): 小笠原純恵(日本 YWCA 国際担当幹事)
- ③ 東日本大震災被災者支援 com7300: 臼井一美(com7300 委員会担当幹事)
- ④ 今後の国際会議・プログラム等の予定: 雀部真理(中高 YWCA 委員会委員/日本 YWCA 運営委員)
- ⑤ その他ユース関連: 山口慧子

5. 中高 YWCA 各校活動報告: 松原恵美子

6. 協議

以下を可決承認。

(1) 全国カンファレンスの評価検討

(2) 中高 YWCA の活動の課題と対策

(3) 2019 年度中高 YWCA 委員について

松原恵美子(委員長/プール学院中高)、石黒明子(捜真女学校中高)、郡司啓子(横浜共立学園中高)、半田敦子(女子学院中高)、肥田信長(とわの森三愛高校)、山本真司(同志社国際中高)、坂東資朗(西南学院中高)、雀部真理(日本 YWCA 運営委員会より)

(4) 次回の全国カンファレンスについて

2022 年夏に実施

(5) 2020 年度顧問総会・研修会 日程

候補をあげて各校調整する。

日程候補: 2021 年 3 月 25 日(木)~27 日(土)

開催地候補: 名古屋(第 1 候補)、大阪、京都、仙台

3. 国連機関および国内外の NGO との協働や機関紙・ウェブサイトでの情報配信等を通して行うアドボカシー(政策提言等)事業 (公益目的事業 1)

国連の諮問機関でもある世界 YWCA との連携と協働のもと、女性と子どもに関するグローバルな課題解決のために政策提言を行った。平和・人権・環境・教育・女性への暴力・HIV と AIDS・性と生殖/健康など、女性と子どもに関わる課題を取り上げたアドボカシー事業を実施し、真理を見極める人材を育成した。また、当法人の公益事業の周知と当法人に対する支援や協力の推進をはかるべく情報発信や広報、ファンドレイジングの促進を行った。それらを YWCA が発行する機関紙やウェブサイトでの情報配信を行った。

■アジア地域 YWCA 会議

テーマ: アジアにおける女性の経済的エンパワメント

日程: 2019 年 6 月 26 日(水)~30 日(日)

会場: 梨花女子大学、韓国 YWCA

宿泊先: 梨花女子大学会議室、学生寮(Hanwoori House)

派遣者: 藤谷佐斗子 尾崎裕美子 小笠原純恵 山口慧子

参加 YWCA: 香港 YWCA インド YWCA 日本 YWCA マレーシア YWCA ミャンマー YWCA ネパール YWCA フィリピン YWCA シンガポール YWCA スリランカ YWCA 台湾 YWCA タイ YWCA 韓国 YWCA(12YWCA、91

名)

内容:

<1日目>開会礼拝、議題・テーマの紹介、各国 YWCA ナショナル・レポート

<2日目>朝の礼拝、各国 YWCA によるワークショップ、フィールドワーク(ソウル YWCA・女性のための人材養成センター、梨花女子大学キャンパスツアー、学生の起業を促進する「Ewha Startup 52nd St」プロジェクトの紹介と現地訪問、フリータイム

<3日目>朝の礼拝、韓国国際協力機構(KOICA)の活動紹介、ソウル市・女性家族部からの「ソウル市が実施する女性のエンパワメントに関するプログラムと政策」についてのお話、アジア地域に共通する課題に関するディスカッション、ユース・フォーラム、閉会礼拝、フェアウェルディナー・文化交流会

<4日目>フィールドワーク(朝鮮半島軍事境界線・非武装地帯(DMZ)訪問)

■世界 YWCA 総会

日程:2019年11月17日(日)~22日(金)

場所:南アフリカ共和国 ヨハネスブルク

テーマ:ジェンダー平等に向けて

若い女性たちが権力構造を変革する

派遣者:

<代議員>藤谷佐斗子(日本 YWCA 会長)、尾崎裕美子(日本 YWCA 総幹事)、吉田亜希(日本 YWCA 副会長)、梅澤昌子(日本 YWCA 運営委員)、福田百(神戸 YWCA)、高野果穂(熊本 YWCA)

<オブザーバー>奥山りつ(京都 YWCA)、坂本真紀(熊本 YWCA)、別所七色(京都 YWCA)、山田咲希(京都 YWCA)、山本光(京都 YWCA)、山口慧子(日本 YWCA 職員)、小笠原純恵(日本 YWCA 職員)

概要:

世界 YWCA 総会には、80 か国から 500 人の参加者が集い、日本 YWCA からは、30 歳以下の青年 8 名を含む 13 名が参加。世界 YWCA 総会は、4 年に 1 度、世界の YWCA 運動が一堂に会し、過去 4 年間の活動を振り返り、活動計画・予算・決議の採択・会則改正等を含む今後の活動方針を決定する。期間中は講演やディスカッション、ワークショップなどを通じて、世界中で女性たちが直面している社会的な課題に関して情報を共有した。加えて、毎朝の礼拝やレセプション、地域別会議など、参加者がともに祈り、食し、交流して絆を深め合う場も設けられ、世代を超えた協働を参加者全員がともに考えた総会となった。日本 YWCA から参加した 8 名のユースメンバーは、ワークショップ「若い女性が YWCA 運動の主体となるには？」を企画・実施。それぞれの経験と思いを海外の YWCA メンバーの前で堂々と発表し、最後にはワークショップ参加者ととともに、一人ひとりの言葉を集めた「翼」のモチーフを作成した。



■第 64 回国連女性の地位委員会(Commission on the Status of Women, 略称. CSW)

以下の日程で派遣を予定し、事前準備等行っていたが、COVID-19 流行のため中止した。

派遣期間:2020年3月9日(月)~3月15日(日)

国連会議期間:2020年3月11日(月)~3月20日(金)

会場:国連本部、周辺(米国、ニューヨーク市)

テーマ:「第4回世界女性会議、北京宣言および行動綱領採択から25周年目のレビュー」

予定していた派遣者:赤池莉歩(東京 YWCA) 加藤初果(東京 YWCA) 海北三奈(熊本 YWCA) 西山由香(東京 YWCA) 林美奈子(名古屋 YWCA/オブザーバー) 柳下史織(東京 YWCA 職員) 山口慧子(日本 YWCA 職員)

■UN Women によって設置された Beijing +25 Youth Task Force

2020年は、1995年に採択された「北京行動綱領」から25周年目を迎え、ナショナル・リージョナル・インターナショナルなレベルで成果と課題の振り返りを行う節目の年となっている。この北京+25のレビュープロセスに、若い世代の参加機会を確保すると同時に、若者の多様な声を届けるため、UN Women は Beijing+25 Youth Task Force を発足した。世界中の市民団体代表の30名のユースで構成されており、日本代表として日本YWCAの山口慧子幹事が選出された。あわせて、北京+25のレビュープロセスに日本YWCAが組織として関わっていくために、2020年3月、日本YWCA「北京チーム」を新設した。国内外のジェンダーの政策提言の場にユースの参加を確保し、ユースの多様な声を反映させるための働きを担う。

■その他アドボカシー活動

- * 機関紙「YWCA」の企画・編集・年6回発行
- * 中高YWCA だより「わーいだよ!」年2回発行
- * 「核」否定に関する情報をわかりやすく発信
- * 「ヒバクシャ国際署名」を実施
- * ウェブサイトでの情報を国内および世界に向けて随時発信
- * 海外で報道されている日本の憲法等の情報を発信
- * 全国アクション(日本YWCA Facebook キャンペーン、パブリックコメントや署名運動の呼びかけ、抗議Fax 送付)
- * 高校生平和大使の世界YWCA 訪問にあたっての協力
- * 政策提言を必要に応じて実施
- * 衆議院憲法審査会傍聴よびかけと報告
- * 民意を無視した政治の情報収集及び他団体協働の集会への賛同、国会前行動への参加
- * 他団体の媒体への情報掲載や、イベント等へ出展

<声明・要望書>

2019年

- 8月6日(火) 要望書 あいちトリエンナーレ2019の「平和の少女像」の展示の再開を要望します
 - * 愛知県知事・名古屋市市長宛
- 8月6日(火) 抗議声明 過去の歴史の過ちを認めて謝罪し、対話による日韓外交を求めます
 - * 内閣総理大臣・外務大臣宛
- 9月30日(月) 即位および大嘗祭の一連の儀式に関する抗議声明
 - * 内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長宛

2020年

- 1月12日(日) 中東への自衛隊派遣に関する抗議声明
 - * 内閣総理大臣・防衛大臣・外務大臣宛

- 2月5日(水) 米国における「中東和平案」に対する声明
* 内閣総理大臣・外務大臣宛
- 3月13日(金) 新型コロナウイルス対策を名目とする新型インフルエンザ等対策特別措置法改正に 対する抗議声明
- 3月13日(金) * 内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長宛
中華人民共和国と大韓民国への差別的措置に対する抗議声明
* 内閣総理大臣・外務大臣宛

<賛同等>

2019年

- 6月10日 「国会議員の科研費介入とフェミニズムバッシングを許さない裁判」支援の会(略称 フェミ科研費裁判支援の会)
- 8月5日 韓国は敵なのか 有志による声明
- 8月15日 日本・在日教会共同声明「私たちは日本の歴史責任を直視し、韓国のキリスト者・市民社会と建設的対話を続ける」
- 9月12日 アジア女性資料センターユースグループ勉強会 「北京+25」について知る
- 11月11日 すべての幼児教育・保育施設に無償化制度適用を求めるフェミニストの声明
ふえみゼミ―ジェンダーと多様性をつなぐフェミニズム自主ゼミナール

2020年

- 1月12日(日) 3・8 国際女性デー ウィメンズマーチ東京 2020
- 1月23日(木) 「在日コリアン虐殺宣言年賀状」に対して、国と市に緊急対策を求めます！緊急声明

4. 国内外の災害や紛争等に対する緊急支援事業 (公益目的事業 1)

国内外で起こった地震・洪水・事故等の災害や紛争等で被災した女性や子どもたちの安全と安心を確保するために、支援物資や支援金の提供および現地のニーズにあった適切なプログラムを実施した。また、そのために必要なトレーニングされたボランティア等の人材を養成した。

■東日本大震災被災者支援

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した女性や子ども達を対象に、以下の中長期支援を行った。

* 心と身体の保養の「リフレッシュプログラム」

①地域 YWCA で行われたリフレッシュプログラム
東京 YWCA

- 日時: i 2019年7月26日(金)～7月28日(日)
ii 2019年8月15日(木)～8月17日(土)
iii 2019年9月21日(土)～9月23日(休)

場所: 東京 YWCA 野尻キャンプ場ゆかりハウス

対象: おもに福島原発事故により外遊びがむずかしい



子どもたち

参加者内訳: (福島県内の参加者の居住地、また人数)

- i いわき市 子ども4人(胃瘻の子ども1人を含む)、保護者1人
- ii いわき市 子ども5人(脳性まひの子ども1人を含む)、保護者4人
- iii いわき市 子ども6人、引率の先生2人

内容: i と ii は、いわき市の重症心身障がい児施設の利用者・そのきょうだい児・保護者を、iii は、いわき市の児童養護施設の子どもたちを招待し、キャンプを実施した。自然体験・ネイチャーゲーム・ナイトハイク・水遊び・クラフト・アーチェリー・野外料理などを体験した。

静岡 YWCA

日時: 2019年 8月2日~2019年8月4日

場所: 静岡市葵区足久保奥組、および静岡市葵区清沢地区

対象: 2011年の震災当時、福島県に居住し、津波や放射能による被害や不安を被った家族。子ども1名とその保護者1名(必要あればそのきょうだい)

参加者内訳(福島県内の参加者の居住地、また人数): 大人7名、子ども9名(6家族)計16名

内容: 小川で魚やカニ捕獲・観察、花火・火起こし体験

名古屋 YWCA

日時: 2019年8月17日~21日

場所: 名古屋学院大学瀬戸キャンパス、岩屋堂公園、ウィルあいち、

対象: 福島県及び周辺地域の小学生とその保護者

参加者内訳(福島県内の参加者の居住地、また人数): 福島市2組、いわき市2組、茨城県1組、東京都1組、小学生9名、保護者6名

内容: ネイチャービンゴ、バーベキュー、川遊び、野外調理、花火、工作、プラネタリウム作り・さをり織りなど

以上の他、京都 YWCA、大阪 YWCA、熊本 YWCA にて実施予定であったが、COVID-19 やその他の理由で延期および中止した。

②地域 YWCA にアンケートを実施。

③リフレッシュプログラムを行っている地域 YWCA 担当者会議(スカイプ)

日時: 2020年1月28日(火)17:00~18:30

内容: 2019年度夏に行われたリフレッシュプログラムの分かち合い、ふりかえり、今後の方針など

*被災者受け入れのための住宅支援「セカンドハウス」

横浜・名古屋・神戸・函館の4軒で、主として家族単位で被災者を受け入れてきたが、2020年1月末をもって名古屋での受け入れを終了した。日本 YWCA は、福島はじめその近隣県の放射能被災下にある家族および単身女性に、日本 YWCA は東日本大震災被災者支援募金より交通費の一部を補助して提供。それぞれの地域 YWCA の協力を得て続けている。

・ 2019年度利用者数: 24 家族 77 名

横浜のセカンドハウス 8 家族 おとな 12 名、子ども 14 名

名古屋のセカンドハウス 3 家族 おとな 6 名、子ども 5 名



神戸のセカンドハウス 9家族 おとな16名、子ども12名
函館のセカンドハウス 4家族 おとな5名、子ども7名

・ セカンドハウス利用相談会

会場:カーロふくしま

開催日:3月9日(土) 来場者7名

6月15日(土) 来場者5名

9月28日(土) 来場者4名

*** 福島市の女性や子どもたちの活動スペースとして、YWCA活動スペース「カーロふくしま」(福島県福島市矢
剣町29-3)を運営**

以下を目的として、2019年度も福島を拠点とする事業を展開した。

活動目的:

- ・ 地域の女性の暮らしを再生することを支援する。
- ・ 福島市周辺に住む女性を対象に、暮らし再建のため、自らの、また地域の抱える課題解決のために主体的に行動できる人材を養成する。
- ・ 活動に参加した女性たちが、その後地域に根差した新規活動を立ち上げ、被災地域の復興と活性化を図ることを支援する。
- ・ 全国の保養活動やセカンドハウスプログラムの拠点となる。

<カーロふくしま主催プログラム>

① 「カーロふくしま」を拠点とした地域の憩いの場づくり

- ・ パステルシャインアート教室

2019年

4月24日(水) 参加者12名、5月29日(水) 参加者11名、

6月26日(水) 参加者13名、7月31日(水) 参加者11名、

8月30日(水) 参加者12名、9月18日(水) 参加者11名、

10月30日(水) 参加者13名、11月27日(水) 参加者10名、

12月18日(水) 参加者12名

2020年

1月22日(水) 参加者13名、2月19日(水) 参加者13名、3月25日(水) 参加者11名

- ・ スリランカのカレーを楽しむ会 4月27日(土) 参加者27名

- ・ にじふくカフェ(福島大学にじいろカフェ) 2月15日(土) 参加者25名

- ・ カーロふくしまおはなし会

*「ドイツの脱原発への道とエネルギーシフトの今～ドイツ・ヨーロッパから見た福島の再生可能エネルギー」 5月20日(木) 参加者27名

*「コミュニケーションのための「やさしい日本語」を学ぼう」 7月17日(水) 参加者4名

*「なつやすみ・おやこワークショップ ゼリーパフェのメモスタンドをつくろう」 7月27日(金) 参加者10名

*「保養や福島のことを、このわやくちやな社会と切り離さずに考える～排除と包摂の視点からみつめる保養のこれまでとこれから～」 10月5日(土) 参加者12名



*「タピオカ×SDGs～大量消費の向こう側～」 10月17日(木) 参加者7名

② 地域YWCA主催プログラム

- ・ 福島YWCA「福島Y'sカフェ『玲子おばあちゃんの料理教室』」9月19日(木) 参加者12名
- ・ 福島YWCA「ワンコインアロマ講座」10月31日(木) 参加者5名

③ カーロふくしま参加プログラム

- ・ ほよ～ん相談会 2019年夏 6月8日(土) 於:いわき市・生涯学習プラザ 参加者307名、9日(日) 於:二本松市男女共生センター 参加者208名
- ・ 311受入全国協議会総会 6月22日(土) 於:東京都・麻布台セミナーハウス 参加者27名
- ・ ふくしま市民活動フェスティバル 11月30日(土) 於:福島市・アクティブシニアセンターAOZ 参加及び来場者2000名、カーロふくしまブース来場者25組80名
- ・ ひまわり感謝祭 12月21日(土) 於:福島市・アクティブシニアセンターAOZ 参加及び来場者1200名、カーロふくしまブース来場者12組40名
- ・ 福島県外避難支援者の会 10月23日(水) 於:山形県南陽市えくぼプラザ 参加者30名
- ・ 福島発みんなでつくる新しいこころのケアシンポジウム 11月27日(金) 於:郡山市ミュージアム 参加者45名

④ カーロふくしま訪問者総数

2019年

4月…61名、5月…59名、6月…34名、7月…55名、8月…17名、9月…39名、10月…64名、11月…54名、12月…37名、

2020年

1月…36名、2月…53名、3月…28名

合計 537名 (45名/月)

■北海道胆振東部地震被災者支援

2018年9月6日の発災以来、札幌YWCAを拠点に函館YWCA・日本YWCA・近隣教会他が連携して活動を行ってきた。2019年4月以降は、札幌YWCAと近隣教会が連携、日本基督教団北海教区の協力を得て支援を継続。さらに10月からは組織を再編し、「胆振東部地震キリスト教支援連絡会」(呼称は、支援連絡会)が支援を継続している。むかわ町子ども発達支援センター・鶴川たんぽぽおよび穂別きらりの保養プログラム、クリスマス会、お楽しみ会支援などについては、2019年度まで実施。また、札幌市清田区里塚地区でのリフ



レッシュプログラムは2019年9月で終了したが、10月以降も日本基督教団北海教区の支援により、住民の要望である体操と編み物の継続、お茶会等を通してニーズを聴き、寄り添っている。お茶会は、4月以降日本基督教団・バプテスト教会・札幌YWCAの3者が分担して担当。2年が経過して信頼関係が築き上げられ、また、少しずつ元気がでてきて自分たちの日常を取り戻しつつある。2020年は次の段階への移行年とする。

<むかわ町子ども発達支援センターたんぽぽ支援>

6/1(土)、7/13(土)、9/21(土)ノーザンホースパーク(苫小牧市美沢 114-7)にてリフレッシュプログラムを

実施。

12/12(木)クリスマス会

<むかわ町子ども発達支援センターきらり支援>

8/3(土)、ノーザンホースパークにてリフレッシュプログラムを実施。

12/9 クリスマス会

<札幌市清田区里塚地区支援>

清田区でのリフレッシュプログラムは、2019年3月で終了する予定であったが、清田区町内会の強い要望により9月まで延長した。その後、これまでプログラムに参加していた女性たちが自主的に声をかけ合い町内会館に集まり、ミニバッグ作りを楽しんだ。

5/20(月)チャリティーコンサート 輝く明日に ～フルーツとチェロとピアノの祈り～ 於:里塚中央会館

「体操教室」4/15(月)、6/10(月)、7/8(月)、9/30(月)に実施。

「羊毛クラフト」6/13(木)、7/18(木)、9/12(木)に実施。

■台風19号被災者支援

福島YWCA・日本YWCAが連携して以下のように動いた。活動の拠点は日本YWCA活動スペース カーロふくしま。

<発災から現在までの動き>

10月12日(土) 台風19号東日本接近

10月17日(木)「第1回台風被害に関する会議」(ふくしま連携復興センター呼びかけ)出席。

10月25日(金) プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社より支援物資到着。

10月25日(金) いわき市平第4公民館、須賀川市すかがわ子育てネットワーク Tunagu(つなぐ)へ支援物資配送

10月28日(月) 福島YWCA会員と共に支援物資の仕分け作業。福島県伊達市梁川町「特別養護老人ホーム ラスール伊達」、「梁川認定こども園」、「社会福祉法人了寿会梁川中央保育園」へ物資の寄贈

10月28日(月) 神戸YWCAより支援物資到着

10月29日(火) セカンドハウス利用者、「原町聖愛こども園」、「認定こども園三春幼保園」、「いわき市民放射能室たらちね」へ支援物資発送

■熊本地震被災地支援

2016年4月14日以降に熊本県と大分県で相次いで発生した地震の被災者への中長期活動支援は、以下の方針のもと、2016年7月1日～2020年3月31日 熊本YWCAを拠点として実施。

- ① 子どもたちの心のケアのためのデイプログラムと春のわくわくキャンプ(福島と熊本の子どもたち対象)
- ② 安心して活動できる拠点としての建物の補強
- ③ 被災した留学生や会員の支援
- ④ 長期的な活動の担い手の育成や研修(特に若い人材養成のため)
- ⑤ 熊本で被災した関係団体への支援



2019年度は、2011年の原発地震の放射能汚染の影響で外遊びが出来なくなった福島の子ども達、2016年の熊本地震で被災した子どもたちを、安心して楽しむことができる4泊5日のキャンプを2020年3月25日(水)～29日(日)の日程で「絵本」をテーマに行う予定であったが、COVID-19の影響で2020年8月に延期した。

■国内外で起こった災害や紛争等の緊急・中長期支援

* サイクロン「イダイ」

- ・ ジンバブエ YWCA

被害を受けた地域の女性たちの支援のため、「Rebuilding her Kitchen」キャンペーンを準備。プログラム支援のため、災害時支援募金 10 万円を送金(4/19)

- ・ マラウィ YWCA

主にこれまで草の根の女性たちを支援してきた地域で被災者支援活動をおこなう準備。活動の支援のため、災害時支援募金 10 万円を送金(4/19)

* コロンボの教会での銃乱射事件

- ・ スリランカ YWCA

スリランカ YWCA の関係者が被害に遭った。スリランカ YWCA が計画する、被害者やその家族の心のケアを行う「記憶を癒す(Healing of Memories)」プログラム支援のために災害時支援募金 10 万円を送金(5/17)

* フィリピンでの 4/22 の地震

- ・ フィリピン YWCA

フィリピン YWCA として行っている被災者支援活動の支援のために災害支援募金 10 万円を送金(2/17)

* COVID-19

- ・ 中国 YWCA

中国 YWCA の要望により、地域 YWCA に協力を呼びかけ、マスク・衛生用品を郵送にて送付(2/10、2/17)

* パレスチナ YWCA の活動支援およびオリーブの木キャンペーン

パレスチナ YWCA が実施している「パレスチナの難民の子どもたちの学びと成長を支援するプログラム」や「女性の自立のための職業訓練」への支援およびパレスチナにオリーブの木を植林する「オリーブの木キャンペーン」に参加し、日本国内で支援を呼びかけた。



5. 地域社会に貢献するボランティアのリーダーシップ養成事業(公益目的事業 1)

国際規模の社会貢献活動を推進し、質を維持するために継続したリーダーシップトレーニングの実施が不可

欠である。以下のボランティアによる全国規模の集会や会議等の社会貢献活動プログラムを日本YWCAに加盟する全国の地域YWCAおよび学校YWCAと、日本YWCAが加盟する世界YWCAに連なる各国YWCAとの協働により実施する。これらのプログラムに参加することによって、ボランティアのリーダーシップが発揮されるようになり、ボランティア・コーディネートを担い、社会状況を分析する力を養い、地域社会・国際社会の女性と子どものニーズに応えながら、主体的に事業の企画・推進を担う、国際的視野にたつ人材が育成される。

■社会貢献活動を推進するボランティアのリーダーシップ養成

国際的・社会的状況を把握・分析し、課題解決のために取り組むべき事業を担うために必要な力を養うためのプログラムおよび研修会

* 日本YWCAの公益事業の企画会議(運営委員会)

2019年

4月26日(金) スカイプ会議

9月7日(土)～8日(土) 於:日本YWCA

10月26日(土) スカイプ会議

2020年

1月12日(日)～13日(月) 於:日本YWCA

2月24日(月・休) スカイプ会議

3月21日(土) スカイプ会議

* 全国規模の社会貢献事業の企画会議(加盟YWCA中央委員会)

2019年5月25日(土) 9:00～26日(日)

於:国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 25日(土)402室 26日(日)102室

* 全国の社会貢献事業の拠点である全国のYWCAのリーダーシップ研修(地域YWCA会長会)

2019年5月24日(金)

於:国立オリンピック記念青少年総合センター センター等

* 全国の社会貢献事業の拠点である全国のYWCAのユースのリーダーシップ研修(全国ユースギャザリング)

日程:2019年10月12日(土)～13日(日)

会場・宿泊:長崎カトリックセンター

参加者:40名

ユース22名(内訳:中学生2名、高校生5名、大学生12名、社会人3名)

シニア17名(内訳:長崎YWCA6名、活水中高YWCA部顧問1名、熊本YWCA1名、福岡YWCA1名、弘前YWCA2名、仙台YWCA2名、福島YWCA1名、ユース委員会3名、職員1名)

プログラム:

<1日目>バスレクリエーション、長崎・外海にてフィールドワーク、交流会、セッション①(自己紹介)

<2日目>カトリック浦上教会にてミサ(オプション)、セッション②(YWCAオリエンテーション、ユースの活動報告、「架空のプログラムについて考えてみよう」/シニアの話し合い、ユースが求めるサポートについて)、閉会祈祷

*** 全国の地域のYWCAで実施する社会貢献事業の協働(LA: Local Action)**

YWCA 平和の守り人 協働:札幌・函館・釧 YWCA

「原発があって幸せですか」～見て つながって 創る私たちの未来～ 協働:福島・新潟・静岡・仙台 YWCA

首都圏で知る・感じる・考える！～沖縄のいま・福島のいま 協働:横浜・湘南・平塚 YWCA

女性のリーダーシップ養成講座「イチからわかる政治入門セミナー」 協働:横浜・静岡・湘南 YWCA

会員のパワーアップ計画第2弾 協働:京都・大阪・神戸・名古屋 YWCA

生きるとは、平和とは 協働:呉・広島 YWCA

自然エネルギーは無限で安全！ 協働:松山・広島・呉 YWCA

*** ボランティアと共に全国規模の社会貢献事業を推進するためのYWCAの職員研修**

YWCA 新幹事研修 ステップⅢ

日程:2019年8月26日(月)～29日(木)

会場・宿泊先:東京 YWCA 野尻キャンプ場

テーマ:対人援助者としてのYWCAの幹事の働き

講師:金香百合(ホリスティック教育実践研究所所長/大阪 YWCA 会員)

参加人数:8名(神戸1名、大阪2名、京都3名、日本YWCA2名)+担当総幹事2名 山本知恵(京都 YWCA) 尾崎裕美子(日本YWCA)

内容:<26日>開会、オリエンテーション(尾崎裕美子)、野尻キャンプ場オリエンテーション・キャンプサイトめぐり(柳下史織)、YWCAの特長を生かした魅力ある活動・事業と対人援助者としての組織と活動(金香百合)

<27日>YWCAの特長を生かした魅力ある活動・事業と対人援助者としての組織と活動(金香百合)、野尻のタベ―会員との交流

<28日>YWCAの特長を生かした魅力ある活動・事業と対人援助者としての組織と活動(金香百合)、幹事レポート発表・幹事とは・幹事論文の書き方・幹事に求められること(山本知恵)

<29日>ふりかえり(尾崎裕美子)閉会(山本知恵)

全国幹事会「全国集会」

日程:2019年11月6日(水)～7日(木)

会場・宿泊先:関西セミナーハウス

参加者:26名(函館1名、東京3名、横浜1名、名古屋3名、京都3名、大阪5名、神戸4名、福岡1名、日本5名)

内容:

<1日目>開会、セッションⅠ 総括とインプット―4年間のふりかえりと現状の共有 幹事とは? 全国幹事会とは?

役割・職責・歴史について、最近の全国幹事会の取り組み、オリエンテーション、夕食、地域YWCA紹介、テーマ別グループ トーク

<2日目>朝のつどい、セッションⅡ 幹事養成研修について、セッションⅢ 広報・ファンドレイジングの今後について、ユース委員会について、ミッション・ビジョン・バリューについて、全国幹事会の持ち方の方向性、次期総会期4年間の全国幹事会のプランニング、閉会

6. 土地建物の貸与および共有事業（収益目的事業1）

当法人の公益目的事業の実施に必要な資金を補うことを目的として、法人が所有する東京都千代田区九段南 4-8-8 の土地と建物を貸与している。公益目的事業に安定した資金供給のために、建物を良好な状態で維持管理するべく、日常の営繕を実施した。



以上